

記事1 東日本大震災11年 記憶伝え 未来守る

神戸新聞 2022年03月12日 土曜日 面名 朝一 14 1ページ

記憶伝え 未来守る

名前【

東日本大震災から11年となった11日、岩手、福島、宮城3県で追悼式が行われた。地震発生時刻の午後2時46分に黙とうがさげられ、参加者らは教訓や記憶をつなぐと誓った。政府主催の追悼式は震災10年を最後に終了。福島県主催の式典に岸田文雄首相が参列し、献花した。

(4、5面にグラフ、2、4、20、33、34、35面に関連記事)

福島市で生まれた追悼復興祈念式には内堀雅雄知事や遺族ら222人が出席。内堀知事は、東京電力福島第1原発の廃炉や汚染水対策など多くの課題を挙げ、「長い道のりだが、復興を成し遂げることを誓う」と述べた。若者代表として、同県郡山市の高校2年、須藤

聖菜さん(17)は「私たちは震災の記憶がある最後の世代。記憶と希望を未来につなげていく力を込めた。岸田首相は政府を代表してあいさつし、「震災による貴重な教訓を風化させることなく、防災対策に役立てていくことはわれわれの責務だ」と強調。「東北の

東日本大震災11年



東日本大震災の被害状況など	
発生時刻	2011年3月11日 午後2時46分
大きさ	マグニチュード9.0 最大震度7
死者	1万5900人
行方不明者	2523人
震災関連死	3784人
全国の避難者	3万8139人
岩手、宮城、福島3県の防潮堤完成率	90.8%

復興に全力を尽くす」と表明した。岩手県大槌町では、県と町が合同で式典を実施。妻と母を亡くした芳賀俊明さん(69)は遺族を代表し、「強い気持ちを持って2人の分まで生きていこうと思う」と述べ、「震災を風化させず次に伝えていくことが、私と同じ思いをする人を減らし、次の世代の未来を守ることにつながる」と訴えた。

津波で約3600人が犠牲となった宮城県石巻市の追悼式には、遺族や関係者が参列。斎藤正美市長は式辞で「全国からの心温まる支援は、絶望の淵に突き落とされた私たちの大きな力となり、心の支えとなった」と謝意を示し、「今後は社会インフラの早期完成と被災者の心のケアなど、支援を充実させていきたい」と決意を語った。

東日本大震災から11年、地震発生時刻に合わせて黙とうする人々。奥は「奇跡の一本松」(11日午後2時46分)、岩手県陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園

記事2 東日本大震災11年 「ともに歩む」

神戸新聞 2022年03月12日 土曜日 面名 朝二社 14 34ページ

「ともに歩む」兵庫から追悼

三宮・東遊園地に50人

神戸・三宮の東遊園地では11日、阪神・淡路大震災を語り継ぐ団体が、東日本大震災の犠牲者を追悼する行事を開いた。約50人が参加し、「3.11 ともに歩む」の文字の形に並べたキャンドル約800個を囲んだ。被害が甚大だった岩手県陸前高田市とオンラインでつなぎ、被災地に生

きる住民同士で命の尊さをかみしめた。NPO法人「阪神淡路大震災1.17希望の灯り（HANDS）」が2012年から続けている。

発生時刻の午後2時46分、参加者はキャンドルの周りで黙とうした。HANDS代表理事の藤本真一さん(37)は「10年の節目を越えた。神戸から寄り添い続けたい」と述べた。



陸前高田市には東日本大震災から9カ月後、東遊園地の追悼の火を分けて設置したガス灯「3.11希望の灯り」がある。

同市の武蔵裕子さん(61)は、震災当時の様子を「とんでもない津波が来ると直感した。目を覆う惨劇で、夢なら覚めてほしかった」と振り返り、「守りたい命を守る。生きる。それに尽きますね」と語った。

ほかにも当時の津波を「何が何だか分からない。地獄のよう」と表現する男性や、「家は失っても家族がいることがありがたい」と話す女性がいた。会場には、若者らの語り部グループ「1.17希望の架け橋」のメンバーも集まった。

松本乃映さん(18)＝神戸市中央区＝は小学生時代、東日本大震災後の宮城県気仙沼市を訪れ、同世代の子どもと交流した経験があるといい「海の周りのはがれきの山だった。もう一度訪ねてみたい」と思いをはせた。(井川朋宏)

「3.11 ともに歩む」の文字の形に並べたろうそくを囲み、黙とうをささげる参加者＝11日午後2時46分、神戸市中央区加納町6（撮影・吉田敦史）



記事3 東日本大震災11年 竹灯籠に祈り

名前【 】

神戸新聞 2022年03月12日 土曜日 面名 朝一社 14 35ページ

宮城・関上地区で兵庫の支援団体

竹灯籠に祈り「忘れない」

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた宮城県名取市関上地区で11日、兵庫県内の支援団体が竹灯籠を並べ、犠牲者を追悼した。兵庫と交流を続ける現地の被災者も参加し、地震が起きた午後2時46分に黙とうをささげた。

市民団体「神戸・心絆」(三木市)と「ひょうごボランティアプラザ」(神戸市)が、阪神・淡路大震災の犠牲者を悼む神戸・東遊園地のガス灯から分けた火と竹灯籠約650本を兵庫から運んで準備した。

晴天ながら、海風が冷たい関上地区の公園に、竹灯籠で「わしえね 3・11」の文字を形作った。「忘れない」を意味する現地の方言だ。点灯作業には通りがかった地元の被災者も合わせ、100人以上が加わった。



竹灯籠を囲み、黙とうをささげる兵庫のボランティアや近隣住民ら＝11日午後、宮城県名取市関上東

参加した名取市関上中央の会社員荒川裕一さん(59)は津波で母好子さん(当時76)を亡くした。7年半の仮設住宅暮らしを経て、2018年末、もともと住んでいた場所近くに自宅を再建したという。

「本当に、兵庫と強いつながりを感じる。毎年「3・11」は特別な思いで目が覚めるけど、こうして竹灯籠の前にすると、ほっとして、落ち着く」。そう語り、静かに手を合わせた。

同プラザなどは東日本大震災の翌年から、関上地区の住民と交流。仮設住宅でお盆や3月11日に追悼行事を営んできた。阪神・淡路大震災が起きた1月17日には神戸に招いている。「神戸・心絆」の杉山正秀代表(61)は「継続が大事。体が続く限り続けていきたい」と話していた。(上田勇紀)

東日本大震災 11年 記憶伝え 未来を守る 問題

名前【 】

記事 1 について

①リード（前文）を写しましょう。

						か	ら		年						日	、			、
																			。
		、																	
							時		分										
																			。
、																			。

②記事本文中の知事や代表者などの言葉に線を入れ、考えたことを書こう。

記事 2、3 について

③記事の中で心に残ったところに線を入れ、考えたことを書こう。
